

(42)

氏名(生年月日)	桑 江 と き は クワ エ
本 籍	
学位の種類	医学博士
学位授与の番号	乙第 264号
学位授与の日付	昭和52年 1月21日
学位授与の要件	学位規則第 5 条第 2 項該当 (博士の学位論文提出者)
学位論文題目	北欧 4 国における脳・心血管系疾患死亡率
論文審査委員	(主査) 教授 石井 妙子 (副査) 教授 広沢弘七郎, 教授 千谷 七郎

論 文 内 容 の 要 旨

目 的

本邦の脳・心血管系疾患死亡率に見る特殊性は世界的に注目される場所である。死亡率にはその集団の健康水準はもとより、その要因として考えられる生物学的特性に加うるに、その属する社会の歴史的、文化的、経済的側面が少なからず投影される。そこで、死亡統計の得られる限り、世界の諸国・諸民族集団の同系疾患死亡率への記述疫学的アプローチは、該疾患本態の究明に資すると考え、先進諸国の本系疾患死亡の統計的分析を行なってきた。本研究はその一環として北欧 4 国（スウェーデン、デンマーク、フィンランド、ノルウェー）の本系疾患死亡率の分析によつて、そこから想定される本系疾患の成因と疫学的特徴をさぐるものと試みるものである。

対象と方法

「脳血管疾患」として“中枢神経系の血管損傷”（第 7 回修正 ICD, B 22）, 「心疾患」として“慢性リウマチ性心臓疾患”（同 B 25）, “動脈硬化性および変性心臓疾患”（同 B 26）, および“その他の心臓疾患”（同 B 27）を対象疾患とした。上記北欧 4 国の死亡統計が同一分類で得られる 1951 年と、それに続く、10 年間の推移を追つた 1960 年と、その中間の 1955 年の 3 年次の該疾患死亡率について、日本のそれとの比較において、統計的分析を行なつた。観察項目は下記のとおりである。

1. 対象疾患の死亡割合による観察
2. 年齢階級別死亡率による観察
3. 粗死亡率と訂正死亡率による観察

4. 日本の訂正死亡率を 100 とした訂正死亡率指数による比較

5. 女子訂正死亡率を 100 とした訂正死亡率性比による観察

結果の要約

死亡割合でつねに心死が脳死を上回るが、ノルウェーはその差最も小さく、ことに女子の脳死の割合が大きいことが注目される。フィンランド男子では心死が脳死をはるかに上回るが、男女差は小さい。

年齢階級別死亡率の観察では、“中枢神経系の血管損傷”の全年齢層でフィンランド男子が最高位、ノルウェー、デンマークが低位にある。10 年間に 30～40 歳を境に、それより高年齢層で死亡率の改善がある。全心臓疾患（B 25—B 27）においても、フィンランド男子曲線は他より上位にあるが、この方は 10 年間には全般的に 30～40 歳より若年齢層で死亡率低下がみられる。“慢性リウマチ性心臓疾患”では、加齢に伴なう上昇度が他疾患より鈍く、10 年間に壮年以降の上昇が見られる。“動脈硬化性および変性心臓疾患”でもフィンランド男子曲線は他を凌駕して高位にあり、ノルウェー女子が最低位にある。“その他の心臓疾患”においてはフィンランドとデンマークが上位を占める傾向で、ノルウェーが最低位にある。

粗死亡率および訂正死亡率の観察では、“中枢神経系の血管損傷”ではほとんどつねに女子が男子を上回り、逐年的には訂正死亡率はノルウェーを除き低下傾向にある。日本との比較ではほとんどが日本の 1/3 以下であ

る。全心臓疾患死亡率では男子が女子を上回り、男子に増加が見られる。これは日本の4倍である。“慢性リウマチ性心臓疾患”死亡率は女子がより高く、日本との比は、その1/3～2倍余である。“動脈硬化性および変性心臓疾患”死亡率はつねに男子が女子を上回り、訂正死亡率ではフィンランドが最高、10年間で男子に増加を見る。日本に対する指数は高く、約5倍である。“その他の心臓疾患”死亡率は日本の1/2～2倍である。

訂正死亡率性比は“中枢神経系の血管損傷”と“慢性リウマチ性心臓疾患”が100未満で女子の死亡超過を示し、他は100以上である。しかし“中枢神経系の血管損傷”の性比は大となる傾向にある。

さらに国別に目立つことは、

1. フィンランドは全般的に本系疾患のすべての死因（“慢性リウマチ性心臓疾患”を除き）で死亡率が最も高い傾向にある。
2. ノールウェーは心疾患の多くでその死亡率が最も低い傾向だが、“慢性リウマチ性心臓疾患”では最も

高い傾向にある。“中枢神経系の血管損傷”も1951～1960年の10年間に最低からひとり上昇を示す。また“動脈硬化性および変性心臓疾患”の逐年の趨勢を見ても、その増加率の高いことは他を凌ぐ。

3. デンマークも一体に本系疾患死亡率の低率国であるが、“その他の心臓疾患”ではかなり高い死亡率を示す。

4. 年齢階級別死亡曲線では、フィンランド男子が“慢性リウマチ性心臓疾患”を除いてほとんどつねに最高位にあり、ノールウェー女子が“慢性リウマチ性心臓疾患”を除いて最低位にある。

結語

地理的に隣接し合う北欧4国の脳・心血管系疾患死亡率については、各国それぞれ注目すべき特徴を指摘することができ、これらの異なつた疫学的態様をもたらす諸要因の解明によつて、今後の本系疾患の本態の究明への布石の一つとしたい。

論文審査の要旨

本論文は、互に隣接し合う北欧4国国民の脳・心血管系疾患による死亡状況を、日本との比較において、性・年齢別に検討・分析することによつて、各国それぞれ注目すべき特徴を指摘したもので、世界の疾病地理学・記述疫学に貢献するところ大であると認める。

主論文公表誌

北欧4国における脳・心血管系疾患死亡率。

民族衛生 第41巻 第3号 118～145 (昭和50年5月30日)

副論文公表誌

- 1) Cardiovascular Mortality in Japan and in the United States. (日本および米合衆国における脳・心血管系疾患死亡率)
Bulletin of the Heart Institute Japan 1968, 91～116 (1968)

- 2) 脳・心血管系疾患死亡率の日米比較。

民族衛生 35 (5) 353～372 (1969)

- 3) イングランド・ウェールズにおける脳・心血管系疾患死亡率—日本および米合衆国との比較—
民族衛生 36 (5) 163～182 (1970)

- 4) Cardiovascular Mortality in 8 Population Groups. (8民族集団における脳・心血管系疾患死亡率)
Bulletin of the Heart Institute Japan Vol. 17 42～55 (1976)